

私はかつて都留市中央公民館で社会教育指導員として、七年間勤務させていただき貴重な経験をしました。それは、それまで自分自身が生まれ育った都留市でも足を踏み入れたことがない地区や、諸施設を見聞できたこと。学ぶ機会の少なかつた歴史や文化財などのことを学ぶことができたこと。そして、それ以上に老人大学や婦人学級で真摯に学ぶ人々の笑顔に出会えたことでした。

社会教育は義務教育などと違って学級や行事なども自主運営となるため、自分たちのやる気があるまま学級運営や行事に反映され、充実した学習が実施されています。そして、その成果としての公民館まつりや秋の文化祭の出品作品も多岐多彩になつてきている姿を見るにつけ、そこに集い学ぶ人々の意欲に頭が下がるとともに、自身の勉強不足を思い知らされる昨今です。

生涯学習ということは、学びたいことや学び取ったことをいかに毎日の生活に反映させていくかと

生涯学習通信 生涯学習推進会議普及・啓発部会

生涯学習ということ

梅谷辰彦

《わたしと生涯学習》5



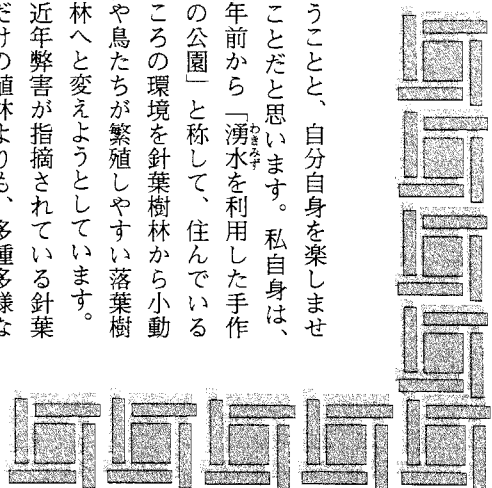
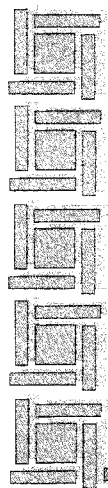
これから何か始めようと考えている方に少しでも参考になればと思い、「わたしと生涯学習」と題して、現在「生涯学習推進に携わっている方」「生涯学習を实践されている方」に【生涯学習について日ごろ考えていること】【生涯学習に実際取り組んでいること】などを紹介していただきました。

ということ、自分自身を楽しませることだと思えます。私自身は、数年前から「湧水わきみずを利用した手作りの公園」と称して、住んでいるところの環境を針葉樹林から小動物や鳥たちが繁殖しやすい落葉樹の林へと変えようとしています。

近年弊害が指摘されている針葉樹だけの植林よりも、多種多様なものが共生できる自然と人間の接点の場所を造ろうとしているのです。それはかつて、山野草の講師をお願いした故K氏が『山野草の本を自生地の写真入りで出版したら、盗掘されて絶えそうになった。今、手元で栽培して増やして山へ返しているんだ』との言葉が忘れられないからです。

桜や紅葉などの花木を植えながら「いつの日にか誰かが楽しんでくれるだろう」と想いつつ自分なりにつぎの世代へ「何かを残せたらいいな」と感じております。

生涯学習というのは、何かを通じて楽しみながら、学び表現し伝える本当の道楽の世界かもしれない。



《学習相談》

Q & A

Q 最近、「学びのまちづくり」とか、「生涯学習のまちづくり」ということをよく聞きますが、生涯学習のまちとは、どんなまちですか？

A 地域ぐるみで生涯学習に取り組む体制のあるまちといえます。生涯学習は、各人が自らの意思で自己の充実や生活の向上のために、必要に応じて自己に適した方法で生涯を通じて行う学習です。これらの学習を進めるためには学びやすい条件が整っていることが必要です。生涯学習のまちには、次の条件が整っていることが望まれます。

- 1 学習機会が十分に提供されていること
- 2 生涯学習関連施設が十分整備され、活用されていること
- 3 社会教育団体・グループ活動が充実していること
- 4 学習情報の提供、相談体制が整備されていること

これらの条件のほかに、人々が学習しやすい環境が整っていることが必要です。